



消防学校 ニュース



令和4年1月号



消防職員専科教育 警防科第16期



Let's Change our minds

警防科全体目標！！

火災対応能力の強化 訓練企画・運営能力の向上



効果的な注水要領の習得

ドールハウスで火災性状を確認

実火災体験型訓練(Hot Training)



CAMP FUJI FIRE

米海兵隊キャンプ富士への校外研修



Reading Smoke



Search & Rescue



自らの命は自分で守る
FFS



ホーストレーニング



座学も真剣!



強制ドア開放訓練



水力換気戦術

火災想定総合訓練

警防科初の学生企画訓練！企画・運営・安全管理すべてを学生が担当！俺たちが訓練を運営するぞ！



令和3年12月9日(木)～12月24日(金)の12日間、専科教育警防科を実施し、県内15消防本部(局)から40人が参加しました。近年における建築様式等の変化に伴い、建物火災時には屋内進入を強いられることが増加しており、消防職員の負傷や殉職という最悪の事故も連続して発生しております。各隊員が不完全な知識や技術をもって活動することほど危険なことはありません。このことから、小隊を統制する小隊長クラスの火災対応能力の向上が急務であると考え、今年度も一般建物火災に特化したカリキュラム構成といたしました。警防科のカリキュラムは屋外での実科訓練が多いため、季節的に非常に厳しい環境でしたが、学生は積極的に訓練に励んでいました。また、新規のカリキュラムとして区画内火災戦術の一つである水力換気、ICTを活用した隊員のモニタリング技術といった新たな取組を学ぶ内容としました。コロナ禍において御協力いただいた方々には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

(担当教官コメント)

近年、消火活動に係る戦術や装備を含めた機械器具は時代の移り変わりとともに変化し、消防隊にも日々進歩が求められています。そのため、今年度の警防科は火災対応能力の強化に加え、訓練企画運営能力の向上を目標としました。まずは、火災性状を把握することが重要です。そこからの確かなサイズアップ(建築様式・環境・煙・酸素・熱・炎・生活様式等)と状況に応じた戦術選択が、迅速な人命救助や効果的な消火活動に繋がります。この点を学生はしっかりと習得したと思います。警防科集大成の火災想定総合訓練では、想定付与から運営、安全管理をすべて学生で企画してもらいました。入校前から想定を考え、短い時間ですが仲間と協力して一つの訓練を作り上げる楽しさや難しさを体験し、学生同士の絆が深まったと感じました。修了生の皆さんには、警防科で習得した知識や技術を、世代を超え多くの職員に対しフィードバックしていただくことを期待します。

教務課主査 森下 善弘 (御前崎市消防本部より派遣)